

第41回

審査にあたって

市民美術展という作品展の審査は初めての経験です。

陶芸の作品づくりで、まず大きな物を制作するのはそれだけで大変な努力と経験を必要とします。その大きな作品が多いのにレベルの高さを感じました。

市長賞には、大平登美子さんのきわめて完成度の高い工芸的な角鉢をえらびました。

最近伝統工芸展でも小さくなくても完成度が高ければ良いという風潮になってきました。

議長賞には、塩山久子さんの現代絵画のような平面と立体の組合せの新鮮さをえらびました。

教育長賞の山川博士さんの作品は、素直で独創的な形態と内と外のバランスの妙に感心しました。

技術的に制約の多い陶芸で、こんなに自由な作品が多いのには感心しました。

来年もみなさんおもしろい作品を出品してください。

2012年2月22日

審査員 前 田 正 博

(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	黄瀬戸八寸角鉢	大 平 登美子	平上荒川
いわき市議会議長賞	花 器	塩 山 久 子	平下神谷
いわき市教育委員会教育長賞	華 の 箱 舟	山 川 博 士	平赤井
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	彩 磁 水 指「黎明」	伊 藤 由季子	小名浜上神白
福島県報徳社賞	葉 彩	佐 藤 淑 子	泉ヶ丘
美術館友の会賞	未来に託す明り壺	市 川 陶之臣	泉ヶ丘
有限会社平電子印刷所賞	雛 祭 り ・ 十 二 単	横 山 猛	草木台
ギャラリー界限賞	花 入	佐 藤 胤 信	平下平窪
ギャラリー磐城賞	運 ぶ 足	箱 崎 り え	植田町
アーツスペース泉賞	花 器	平 子 タ キ	小川町上小川

第42回

審査にあたって

市民美術展陶芸の部は本展で19回目と聞きました。一昨年の大震災を乗り越え、続けてこられた陶芸愛好家及び運営委員の皆様に、まずは深い敬意を表したいと思います。

今、私は益子にてプロとして制作活動を行っておりますが、それ以前は陶芸教室で陶を楽しむ一愛好家でした。この様な展覧会に応募し、落選をした経験も有ります。その事を思い出しますと、多数の応募作品の中から数点を選び出す事に大変苦慮いたしました。が、アマチュア時代も含め40年近くになる自身の技術的経験、作陶姿勢、培われてきた美意識等を踏まえて、僭越とは存じますが、選ばせていただきました。

感想は下記に述べさせていただきます。

市長賞「粉引縦裂水指」は、縦に入った裂け目の様な文様に乗った粉引の縮れ具合が良く、銜^{ては}った感じがしない良い水指だと思いました。

議長賞「釉裏紅ゆり文大鉢」は、ゆりの文様が良く考えられて配置され、グレーと白の掻き落としの上に、釉裏紅の赤が効果的な、よく考えて作られた大皿です。

教育長賞「彩磁クレマチス文水指」は、絵付も形も焼き上がりも良く、完成度の高さに驚かされました。

いわき市文化協会会長賞「和の心」、この茶碗は形がふっくらと手取りも良く、抹茶の緑がよく映えそうな茶碗です。

福島県報徳社賞「白釉壺」は、叩き壺としてのバランスの妙に惹かれましたが、口作りにもう一工夫有れば尚良かったかと思います。

美術館友の会賞「彩色広口花器」は、色合いも良く、リズムカルで洗練された作品です。

ギャラリー界限賞「あやめ文湯呑みそろい」は、シンプルですが、素直で清潔感があり、好感を持ちました。

ギャラリー磐城賞「雅」は、ざっくりと削った石目に紫の釉が不思議な効果を出した大作です。

アートスペース泉賞「雪あかり」は、和紙で作った行灯のような柔らかい形が良いと思いました。

今後益々の盛会を願うと共に、飾って美しく使って良しの作品を見せて下さる事を期待しております。

2013年2月20日

審査員 馬 場 由知子
(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	粉 引 縦 裂 水 指	山 川 博 士	平赤井
いわき市議会議長賞	釉 裏 紅 ゆ り 文 大 鉢	樋 田 和 代	小名浜下神白
いわき市教育委員会教育長賞	彩磁クレマチス文水指	伊 藤 由季子	小名浜上神白
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	和 の 心	新 妻 勝 代	四倉町
福島県報徳社賞	白 釉 壺	木 田 聡 子	平
美術館友の会賞	彩 色 広 口 花 器	荻 野 イチ子	泉町
ギャラリー界限賞	あやめ文湯呑みそろい	石 井 光 栄	内郷高野町
ギャラリー磐城賞	雅	佐々木 康 行	平中平窪
アートスペース泉賞	雪 あ か り	鈴 木 朝 子	郷ヶ丘

第43回

審査にあたって

陶芸の領域が限りなく広がっている。伝統と現代が入り混じり、絵画や彫刻、デザイン、写真、書などの技法・技術を生かし、土でモノを作って焼く行為がとても楽しいのだ。私は女子美術大学や金沢美術工芸大学で学部から大学院の工芸領域で主に陶芸を教えた、というより学生の持つセンスや創造性を引き出すことに留意してきた。

今回、いわき市民美術展覧会・陶芸の部の審査にあたって感じたのは、出品作品のいい面をもっと引き出す機会があれば、さらに創作に拍車がかかるのではないか、ということである。美大の陶芸研究発表会に立ち会ったようだった。

「いわき市長賞」の「旅－1（はじまり）」は、独自の造形力と色彩感覚が融合し、詩情を楽しませてくれる。「いわき市議会議長賞」の「砂上の牢獄」は、「いわき市教育委員会教育長賞」の「広がれ！ Love 骨密度」とともに、3.11大災害の痛みの深度をえぐるコンセプトによるものだろう。

佳作では、「いわき市文化協会会長賞」の「アフリカの太鼓 ウドゥ」は、土を用いたとは思われぬ金属的な表現ながら、やはり土でなければ出せない音を感じさせた。「福島県報徳社賞」の「輪」は、伝統的な陶を意識下に置いたうえでの現代性を感じさせ、「美術館友の会賞」の「花器」は、陶芸技法、技術を丹念に追った大作。「M氏賞」は「呪詛」と題した観念的な現代美術の領域に立ち入っている。「ギャラリー界限賞」の「筒茶碗 日だまり」は、形態と釉薬が融合した心地よい甕を手にとれる。「ギャラリー磐城賞」の「釉裏紅搔落し文組鉢」は、伝統技法を用いて明るさとたくましい現代雑器を作り上げた。「アートスペース泉賞」の「なめだんごセット」は、日常の用の心温まる美を持つ。

最初にも述べたが、出品作に共通する陶芸ならではの魅力ある表現の可能性は十分で、それをさらに引き出す努力が今後の作品づくりに掛ってくると思われる。

平成 25 年 8 月 7 日

審査員 伊 藤 公 象
(陶造形作家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	旅－1（はじまり）	佐藤 界	明治団地
いわき市議会議長賞	砂上の牢獄	石井 光榮	内郷高野町
いわき市教育委員会教育長賞	広がれ！ Love 骨密度	鈴木 ゆかり	平下高久
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	アフリカの太鼓 ウドゥ	木村 洋一	四倉町
福島県報徳社賞	輪	櫛田 常雄	勿来町
美術館友の会賞	花 器	山野辺 よね子	四倉町
M氏(いわき陶芸協会)賞	呪 詛	吉田 重信	平下荒川
ギャラリー界限賞	筒茶碗 日だまり	鈴木 タイ	四倉町駒込
ギャラリー磐城賞	釉裏紅搔落し文組鉢	樋田 和代	小名浜下神白
アートスペース泉賞	なめだんごセット	丹野 美紀	平下平窪

第44回

審 査 講 評

陶芸というと、少し前までは壺、皿、鉢等伝統的な物と、前衛的なオブジェが少しという感じだった。最近、いくつかのギャラリー、その他展示会、または、お店を見せていただく度に感じることは、伝統的、前衛的以外に、新しい分野が広がっていることに気付くことがある。雑貨という分野に入るのかもしれないが、伝統的、前衛的でもなく、とにかく空間を楽しくするモノ達だ。最近ますます、この世界が広がっている気がする。

今回、いわき市民美術展覧会、陶芸の部の審査にあたって感じたことは、出品作品がやはり、伝統、前衛方面、または照明器具、そして置き物等、多方面に渡っているということだ。作りたいものを作る!! これは、モノを作っていく上で、最も大切なことである。

さて、受賞作について触れていきたい。「いわき市長賞」の《布目花入》は、小ぶりではあるが、赤土に布目の化粧を施し、鉄絵で縦の線をフリーハンド的に入れ、まとまりが良く、いい空気を感じた。

「いわき市議会議長賞」の《♪降る春》は蝶の絵を照明器具本体正面に大きく描き、灯りを点けた時の華やかさを感じた。

「いわき市教育委員会教育長賞」の《雲の信号》は、初めに見た時、フワッとした作り、柔らかさを感じた。またその上に描かれた文様が、器の形と適って、とても良かった。

佳作では「いわき市文化協会会長賞」の《麒麟花器》は箱のような形を花入にして、注ぎ口のようなものを付け、織部釉を掛けた作品だが、麒麟の文様がとても良く、今の時代に適った優品だ。欲を言えば、もう少し大きさが欲しい。次回に期待する。「福島県報徳社賞」の《彩磁椿文水指》は技術的に秀れたものを感じた。この技法でいろんな形を期待する。「美術館友の会賞」の《釉裏紅搔落文大鉢》は伝統的な技法を用いて、百合の花をリズム感良く描いた優品だ。「M氏賞」の《貴方の生きる世界》は、粘土で作った鎖一つ一つに人の文様を描くなど、手間も掛かり、見ていると、何か考えさせられる作品だ。「ギャラリー界限賞」の《焼締大壺》は、焼成による“いたずら”が入り、肩が片方に落ち少し斜めになっているが、「焼き物というのはこういうものだ!!」と感じた。灰釉の発色も良い。「ギャラリー磐城賞」の《焼メ花入》は備前の土らしきものを大切に、ゆっくり、ゆっくり薪で焼き上げ、なるべくビードロ釉が掛からないように、備前焼らしく焼き上がっている。「アートスペース泉賞」の《シェル》は、今回一番スケールの大きさを感じた作品だ。このスケールの大きさを、今後も大切にしてほしい。

初めにも述べたが、陶芸の表現方法、または技法も、これからますます広がることだろう。柔らかな土を焼いて形を作っていく作業、これからも、作りたいモノを作り続けて欲しい。

2015年3月4日

審査員 鈴木 環
(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	布 目 花 入	小 川 節 子	内郷綴町
いわき市議会議長賞	♪ 降 る 春	横 山 猛	草木台
いわき市教育委員会教育長賞	雲 の 信 号	箱 崎 り え	平中神谷
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	麒 麟 花 器	横須賀 政 雄	三和町上永井
福島県報徳社賞	彩 磁 椿 文 水 指	伊 藤 由季子	小名浜上神白
美術館友の会賞	釉 裏 紅 搔 落 文 大 鉢	樋 田 和 代	小名浜下神白
M氏(いわき陶芸協会)賞	貴 方 の 生 き る 世 界	鈴 木 ゆかり	平下高久
ギャラリー界限賞	焼 締 大 壺	阿 部 新 一	錦町
ギャラリー磐城賞	焼 メ 花 入	佐 藤 胤 信	平下平窪
アートスペース泉賞	シ エ ル	市 川 陶之臣	泉ヶ丘

審査講評

今年になり、もう3回の陶工芸展の審査をした。応募作品の質が高くなり、伝統的な技法の発展、新たな技法、表現、独特な釉調等毎回新鮮な感動をする。陶芸において、プロアマチュアの境は無く、陶磁土を手にした感動、創造する感動、全て同じで、独自の表現、創造性のある作品を、評価したい。

今回、いわき市民美術展覧会、陶芸の部の審査にあたり、委員の人々の努力と美大卒業展のような、新鮮な感動をし、審査した。

いわき市長賞の「育ち始めた『繊細な大胆』」は、リズムカルな独自の造形力に優れた秀作。もっと大きな、大胆な次作に期待する。

いわき市議会議長賞の「流麗」は、釉色と線文との融合、独特な口作りが良い作品。いわき市教育委員会教育長賞の「彩」は、安定した丸壺に手鞠をほうふつとさせる色彩に和む作品。

佳作では、いわき市文化協会会長賞の「青白磁香炉」は、ロクロ技法に優れ、釉調の良い作品。報徳社賞「陽光の導き」は、皿底から口にかけてグラデーションした釉調に、大胆な花葉が魅力的な作品。美術館友の会賞「葉の鼓動」は、独自の構図で織部釉との相性の良い作品。M氏賞「衣笠茸」は、ランプの光源色とシェードの繊細な造りに優れた作品。ギャラリー界限賞「♪踊る溪流と木もれび」は、ランプシェード特質な良さを生かし、表現技法に優れた作品で、この技法で花器等、さまざまな作品に展開した次作に期待する。ギャラリー磐城賞「盛華入」は現代の縄文土器のような素朴な内に迫力を感じる。アートスペース泉賞「岩膚扁壺」は、陶土の特質を生かし、大胆な造形。釉質は、陶土の原点を思い出させる。力強く、迫力ある作品で、次作に期待する。

2016年3月2日

審査員 寺 本 守
(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	育ち始めた「繊細な大胆」	鈴木 ゆかり	平下高久
いわき市議会議長賞	流 麗	増 井 やよい	平
いわき市教育委員会教育長賞	彩	荻 野 イチ子	泉町
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	青 白 磁 香 炉	伊 藤 由季子	小名浜上神白
福島県報徳社賞	釉裏紅搔落文鉢「陽光の導き」	樋 田 和 代	小名浜下神白
美術館友の会賞	葉 の 鼓 動	芳 賀 明 美	中央台
M氏(いわき陶芸協会)賞	オブジェ ランプシェード(衣笠茸)	若 松 太 久	小名浜岡小名
ギャラリー界限賞	♪踊る溪流と木もれび	横 山 猛	草木台
ギャラリー磐城賞	盛 華 入	櫛 田 常 雄	勿来町
アートスペース泉賞	岩 膚 扁 壺	市 川 陶之臣	泉ヶ丘
《特別賞》			
青少年賞 学校法人山崎学園賞	鬼 灯 と 雲	黒 田 美 紗	郷ヶ丘

※青少年特別賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。(新設)

第46回

審査講評

このたびは、いわき市民美術展覧会陶芸の部の審査員に招請頂き光栄です。46回の歴史を重ね、市民の美術文化活動を継続されて来た主催者、関係団体、出品者各位に心より敬意を表します。

受賞選考に際しては、虚心坦懐に、偏向のない審査を心掛けて臨みました。会場を一巡し、非常にバラエティーに富んだ楽しい作品群であるとの印象を受けました。まず受賞候補として、付箋を置きながら約16点を対象とし、その中から14点の受賞作を決定しました。その基準となったのは、作品の主張がシンプルで明快であること、他者のコピーでない独自性を持つものであること等です。

市長賞の樋田和代さんの「釉裏紅搔落文大鉢」は、伸びやかに広がる形の美しさ、内面に描かれた鉄線花の釉裏紅の鮮やかさ、轆轤技術の達者さが印象的で、優作として真先に心に残りました。

議長賞の新井節子さんの「御影焼締め花入」は、特に変哲もないずん胴の花入ですが、ざっくりした土を正面から大胆に削ぎ落とし、焼きによる仄かな紅色と吹き出しの鉄が効果的で、高台部の突帯も全体を締めて堂々たる花生となっています。

教育長賞の蕪木良子さんの「万葉の黒船」は、左右扁平に立ち上がる舟形の上縁を鋭く切り取った形に躍動感を感じました。黒地に対比する淡い黄土のバランスも過不足なく、銀箔の配置もモダンで、見る角度で花心がそそられることでしょう。

次に佳作受賞者の作品について述べます。荻野イチ子さんの「彩り」は、数種の色泥を使った帯の束が器胎を巡り交錯します。計算された幾何学文様の色調も美しく、レベルの高い作品ですが、ボディーの凸凹はすっきりした方が良いと思われました。

「天空への叫び」をつくられた市川陶之臣さんは、素材を良く知る力のある作家だと思いました。粘土の可塑性が表現に効果を与え、太古の化石を想起させます。

Lapiyさんの「ブランク」は、備前の土でしょうか。須恵器風の焼肌が魅力的です。轆轤も篋目にも迷いなく大胆なところが印象的でした。

佐藤界さんの「竜宮様 私たちの望むもの」では、深海の魚達はややグロテスクですがユーモラスで、空想の竜宮に棲む竜を想像させました。土捏ね遊びの喜びが存分に窺われる楽しさを評価したいと思います。

伊藤由季子さんの「青白磁香炉」は、完成度、淡い釉調共に申し分無いですが、香炉としての既視感からか、もう一つ独創性を期待したく、佳作に留まりました。

以下、その他の佳作及び入賞しなかった作品の中にも、見所ある作品が多くありましたが、字数のこともあり省略せざるをえないのが残念です。

なお、出品作には抹茶茶碗が相当数見られ、その中から一点を賞に選びました。茶碗は誰しもが土に触れて作ってみたい物、また掌中で完成する限界の形でもあります。口、見込、高台、全てに無心無作為に生まれてきたような一点を、一服してみたいと思う一碗をと選んだところ、作者の年齢17才とのこと。迷わず青少年賞とさせて頂きました。

最後に今回の受賞が、作者のみならず多くの鑑賞者と創るよろこびを共有し、さらにレベルアップし、意欲あふれる新たな創造につながることを期待します。

2017年3月8日

審査員 橋本昌彦
(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	釉裏紅搔落文大鉢	樋田和代	小名浜下神白
いわき市議会議長賞	御影焼締め花入	新井節子	中央台
いわき市教育委員会教育長賞	万葉の黒船	蕪木良子	平北白土
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	彩 り	荻野イチ子	泉町
福島県報徳社賞	天空への叫び	市川陶之臣	泉ヶ丘
美術館友の会賞	ブランク	Lapiy	四倉町
M氏(いわき陶芸協会)賞	竜宮様 私たちの望むものは	佐藤界	明治団地
ギャラリー界限賞	青白磁香炉	伊藤由季子	小名浜上神白
ギャラリー磐城賞	象眼水指	山崎淳司	田人町南大平
アートスペース泉賞	沫雪の夜の梅	太田俊恵	泉ヶ丘
株式会社源太賞	芽吹き	芳賀明美	中央台
Y K企画賞	帆	鈴木啓介	四倉町塩木
ギャラリー数茶賞	花 器	山野辺よね子	四倉町
《特別賞》			
青少年賞 学校法人山崎学園賞	優	草野優衣	平北白土

※青少年特別賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。

第47回

審 査 講 評

私は陶壁作家なので、その立場から工芸的技法よりも、どちらかというと造形性・創造性に重きを置いて審査させていただきました。勿論、器の場合は轆轤技術とか、絵付けの確かさ、釉調の美しさといった陶芸としての完成度も大切ですので、その点も考慮しつつ、とりわけオリジナリティの高いものを選ぶよう心掛けました。

いわき市長賞の芳賀明美さんの《風と葉》という作品は、遠目からもひときわ目立っていました。手前の丸筒を重ね合わせた形と、後ろの角柱を斜めに傾けた形とのコントラストが明解で、大胆さと繊細さを兼ね備えたインパクトの強い作品に仕上がっています。

議長賞の阿部新一さんの《御影練込焼締花生》はシンプルで、小さい作品ですが、土の厚みがかえって効果的で確かな造形力を感じました。又、淡い色の土を重ねた練込みで成形していますが、それが地層の様に感じるのは、土の塊から掘り出した厚みがあるからこそだと思います。小さくても大きさを感じる作品に仕上がっています。

教育長賞の荻野イチ子さんの《彩 2018》は、陶芸作品として完成度の高い作品です。球状の形に直線的な意匠が良くマッチして、蹴鞠のような可愛らしさもあります。唯、何処かで見たような作品の感が否めないのは少々残念です。今後の独創性を期待します。

佳作では、太田俊恵さんの《眠らない都》の作品が面白いと思いました。丸から三角という両極の形の組合せが、とてもシャープで、しかも、2本の組合せが男女の語らいのようでほほえましく感じました。

緒方延子さんの《花器》は素朴さの中にも力強さを感じる作品です。小川節子さんの《雪冠》は黒と白の釉のバランスが絶妙です。キダサトコさんの《獅子》は、うまいへたを乗り越えたおおらかさに好感が持てました。平子タキ子さんの《鮑紋大鉢》は特に側面の釉調が古代の壺のようで美しいと思いました。菊田君江さんの《織部の深鉢》は、形はダイナミックで面白いのですが、残念ながら釉が少し浅い気がします。もう少し深みがあればと思いました。佐久間静子さんの《清風》は柔らかなフォルムの中に確かな造形力を感じました。

青少年賞の鈴木加奈子さん、愛乃さんの茶碗は、二つとも、バランスの取れた形という点で、きわだっていました。

尚、選外の作品の中にも、面白いすぐれた作品がいっぱいあって、選ぶのに苦労したことを付け加えておきます。

皆さんの今後のさらなるレベルアップを、期待いたします。

2018 年 3 月 7 日

審査員 藤 原 郁 三
(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	風 と 葉	芳 賀 明 美	中央台
いわき市議会議長賞	御影練込焼締花生	阿 部 新 一	錦町
いわき市教育委員会教育長賞	彩 2018	荻 野 イチ子	泉町
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	眠 ら な い 都	太 田 俊 恵	泉ヶ丘
福島県報徳社賞	花 器	緒 方 延 子	内郷宮町
美術館友の会賞	雪 冠	小 川 節 子	内郷綴町
M氏賞(いわき陶芸協会)	鮑 紋 大 鉢	平 子 タキ子	小川町上小川
ギャラリー界限賞	獅 子	キ ダ サトコ	平下大越
ギャラリー磐城賞	清 風	佐久間 静 子	常磐上湯長谷町
アートスペース泉賞	織 部 の 深 鉢	菊 田 君 江	小川町柴原
《特別賞》			
青少年賞 学校法人山崎学園賞	茶 碗「春 の 野」	鈴 木 加奈子	好間町小谷作
青少年賞 東日本国際大学 附属昌平中学・高等学校賞	涼	愛 乃	常磐上矢田町

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。

審 査 講 評

伝統的な仕事が主な私は、自分の分野には厳しく、造形的な作品には甘くなるのではないかと
いう不安が審査前にありましたが、審査を始めるとそんな不安も消え、楽しく審査させて頂きました。

いわき市長賞の伊藤由季子さんの《睡蓮日和》は花を一枚一枚丁寧に彫り彩色し、蓋を開けると水紋まで櫛目を入れ、細部まで拘った作品です。技術も素晴らしく、気品ある詩情豊かな世界に惹かれました。いわき市議会議長賞の荻野イチ子さんの《彩 2019》はブルーのグラデーションが美しく、白と黒の化粧土のコントラストも的確で、模様が醸し出す奥行感が魅力的でした。いわき市教育委員会教育長賞の佐藤淑子さんの《金彩花器》は黒と金の市松模様が現代的でバランスも良く惹かれました。少しシャープさが加わるともっと魅力的な作品になると思います。佳作では、佐藤界さんの《回帰》は、太陽が祈っていたり、高台近くには龍がいたり、心安らぐユニークな作風に心を打たれました。橋本栄子さんの《紫陽花》は、雨の日の雰囲気伝わり良かったと思います。芳賀明美さんの《春雷》も、春らしい緑色に雨や雷がうまく表現されていました。青木有紀さんの《透器》は、ランダムな透かし模様が器とうまく調和していると思います。蕪木良子さんの《アンテロープの朝霧》は、珪砂でしょうか、朝霧が伝わります。吉田充さんの《カップ》は小気味よいリズムを感じ魅力的ですが、カップに限定しない方が良いと思いました。草野彩華さんの《彩》は、口のへこみや微妙な傾き、春の陽の暖かさをも感じる茶盃にとっても惹かれました。青少年賞の宇羽野柚さんの茶盃に荒々しさの中に繊細な美しさを感じ、佐藤知輝さんの茶盃にはのびやかな広がりを感じ魅了されました。尚、選外の作品の中にも賞を授かってもおかしくない作品が多々あり苦労しました。

マルチアーティストである光悦の茶碗は重要文化財でも TOP に掲げられています。彼は陶芸家でもないのに、陶芸家より素晴らしい作品を残したのです。私も皆さんと同じです。少しだけ私の方が技術を持っているかもしれませんが、技術ではないのです。制作しているうちに技術は後からついてくるものだと思います。自分の感性を大切にして、思っている事を素直に表現していくことが見る人の心を惹きつける作品になると思います。自分の感性を大切にして制作することを願っています。

2019年3月6日

審査員 井 口 雅 代

(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	睡 蓮 日 和	伊 藤 由季子	小名浜上神白
いわき市議会議長賞	彩 2019	荻 野 イチ子	泉町
いわき市教育委員会教育長賞	金 彩 花 器	佐 藤 淑 子	泉ヶ丘
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	回 帰	佐 藤 界	明治団地
福島県報徳社賞	紫 陽 花	橋 本 栄 子	内郷御厩町
美術館友の会賞	春 雷	芳 賀 明 美	中央台
M氏賞(いわき陶芸協会)	透 器	青 木 有 紀	平
ギャラリー界限賞	練り込み アンテロープの朝霧	蕪 木 良 子	平北白土
ギャラリー磐城賞	カ ッ プ	吉 田 充	中央台
アートスペース泉賞	彩	草 野 彩 華	内郷内町
《特別賞》			
青少年賞 学校法人山崎学園賞	ご く ご く 碗	宇羽野 柚	平
青少年賞 東日本国際大学 附属昌平中学・高等学校賞	竜 人 杯	佐 藤 知 輝	内郷高坂町

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。

第49回

審査講評

ひとりで審査する事が初めてなのでとても緊張しましたが、集まった作品を見て色々と私も勉強になりました。私は工芸作家なのですが、全体の作品を見て技術的な面よりも発想のおもしろさ、アイディアの豊かさ、造形性などに視点をおき選ぶよう心掛けました。

いわき市長賞 横須賀政雄《七輪》はアイディアと形、魚文のダイナミックさがひととき目立ちとても良いと思いました。議長賞 横山猛《TOKYO 2020》は照明になっており、むずかしい磁土系の粘土を使い色彩も豊かでアイディアと造形性をうまくまとめて大変楽しいと思いました。教育長賞 芳賀明美《風と葉－奏》は動きのある形にたっぷり織部釉がかけられ、風や音を感じるような作品になっていて感性がすばらしいと思いました。佳作ではユッカリ工房《ご褒美はワ・タ・シ》はワニを擬人化させちょっと色っぽいポーズを取りとてもユーモラスな表情で、陶芸作品ではむずかしいと思うのですが楽しい作品になっています。荻野イチ子《彩 2020》は竹を編んだような文様で色化粧のグラデーションもさわやかな色調にて大きさもあり良いと思いました。伊藤由季子《彩磁椿文鉢》は全体のバランスが良く焼上がりもきれいに上がっていますが、ただ、中の釉薬がもうすこし淡い色調で外輪の三つのつまみはなくても良いかなーと思いました。青木有紀《緑炎》は小壺ながら炎のレリーフと造形性がうまく表現出来て素直に感じる物があると思います。山崎淳司《象嵌夫婦茶碗》は三島手手法でありながらちょっと淡い青味のある釉がかかり完成度もあり新鮮に感じました。橋本栄子《夢を飾って》はタイトルどおり夢の中に浮かぶひとかぶの花、さわやかでうまくまとまっています。キダサトコ《UFO》は楽しい作品で良いと思いました。佐藤淑子《孫への贈りもの》は焼上がりは自然釉でしゅいのですが心のこもった作りがとても良いです。高橋晴美《土に恋して 薔薇 2020》は土味を生かした小物ですけど雰囲気は出ていますね。青少年賞 大友春貴さんの茶碗ですが手に持った時の感じがいちばん茶碗らしく感じられました。

僕の大好きなアーティストがこんなことを書いてました。「未完成は完成よりも、もっと情感的だ」と。完成しないから作り続けられるのだと思います。皆さんも土をにぎりしめて。

2020年3月4日

審査員 筒井 修
(陶芸家)

陶芸の部 入賞者

賞 名	題 名	氏 名	住 所
いわき市長賞	七 輪	横須賀 政 雄	三和町上永井
いわき市議会議長賞	TOKYO 2020	横 山 猛	草木台
いわき市教育委員会教育長賞	風 と 葉 － 奏	芳 賀 明 美	中央台
《佳作》			
いわき市文化協会会長賞	ご褒美はワ・タ・シ	ユッカリ工房	平下高久
福島県報徳社賞	彩 2020	荻 野 イチ子	泉町
美術館友の会賞	彩 磁 椿 文 鉢	伊 藤 由季子	小名浜上神白
M氏賞(いわき陶芸協会)	緑 炎	青 木 有 紀	郷ヶ丘
ギャラリー界限賞	象 嵌 夫 婦 茶 碗	山 崎 淳 司	田人町南大平
ギャラリー磐城賞	夢 を 飾 っ て	橋 本 栄 子	内郷御厩町
アートスペース泉賞	UFO	キ ダ サトコ	平下大越
ガスワン賞(常磐共同ガス株式会社)	孫 へ の 贈 り も の	佐 藤 淑 子	泉ヶ丘
ひまわり信用金庫賞	土 に 恋 し て 薔 薇 2020	高 橋 晴 美	内郷御台境町
《特別賞》			
青少年賞 東日本国際大学 附属昌平中学・高等学校賞	佐 藤 祥 一	大 友 春 貴	好間町中好間

※青少年賞は、若手育成を目的とした賞で20歳未満の出品者を対象とする。